

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
1	2 計画について	農業だけでこのご時世収入はないのは改善困難で、サラリーマンが必要な箇所の参加ができて伊賀市の自給率をあげていけないか。私自身参加して自分で食料の確保が長い目で見て出来るといいなと思うが、素人が仕事しながら参加するのはハードルが高いので、自治体も事業所も中心は農業でとらないと難しそう。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
2	2.計画内容の8行目「若者や女性などが農村の持つ価値や魅力を感じて、関心や関わりを高められるような」	これからの農業の担い手不足が問題となっている今、若者や女性が魅力と感じる農業の在り方とは、どのような方法が具体的にあげられているのか気になります。これから専門家や事業団体、市民の意見を取り入れ、考えていくのであると思いますが、これまでに取り組んできた実践や、取り組もうとしていることが分かるとありがたいです。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
3	2ページ「2 計画の内容」の第一パラグラフ	次のように修文することを提案します。「伊賀市における課題や現状を分析・検証し、これまで先代が築き上げてきた地域農業や自然環境を守っていくとともに、将来の農業者が安心して経営できる体制づくりや、もうかる農業の構築に向けて、伊賀市の地域資源をマーケティングの手法を用いて京阪神などターゲット地域へ売り込んでいく先進的な農業に取り組むことにより、所得の向上や雇用の創出をめざします。」（理由）京阪神大都市地域では伊賀米やイチゴなどの果物に対する底堅いニーズがあり、それに対応することがもうかる農業ひいては経営の安定に直結すると考えられるため。	「儲かる農業」については、その施策内容も含めて今後検討し、計画の内容に反映させていきたいと考えています。	—
4	何処が夢ある農業振興かわからん @ezweb.ne.jp	生産者が農業をやりたいと思う政策でないとなにを計画しても無理でしょう。机上の施策、計画では意味がない。生産者にきっちりとお金が入り生活が継続出来るのが基本です。生産者を蔑ろにする様な計画に夢は無い。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
5	2計画の内容	農業家ではない一般市民も農作物を栽培できる環境をもっと増やしてほしい。退職後に野菜など育てたいが何処でできるのかわからない。またでけるだけ自宅に近い場所が良い。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
6	趣旨の2行目。古琵琶湖層、栄養分が豊かな土壌	両者の関係は科学的な説明がなされてるのですか、具体的にどこのどのような土壌が栄養分豊富なのですか？	伊賀市が古琵琶湖層を形成する地域であったことについては、複数の論文などに記述されています。また、古琵琶湖層に含まれる有機物は、植物の成長に必要な栄養素（窒素、リン、カリウムなど）を豊富に含んでいます。	—
7	7 計画のタイトル	『夢のある』計画は、今だからこそ必要だと思います。中山間地で先祖伝来の米作りをしている小農も夢を持てる記述となることを望みます。国の記述を持ち込むだけでなく伊賀の特性を反映した計画を望みます。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
8	1. 農業振興計画策定の趣旨の表	9～10行目で農業者の平均年齢も70歳以上が67%を占めておりと書いてるので、表も可能であれば年齢別の表やこのままいけばここまで担い手が居なくなるといった表等があればより分かりやすくなるのかなと思いました	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
9	9 計画策定スケジュール	本年度4月5月で農業関係者へのヒアリングと書いてあるが、誰にヒアリングしたのか？せめて認定農業者全員に聞いて欲しい。	JAいがふるさとなどの農業関係団体のほか、折に触れ農業従事者の方からご意見を頂戴しました。伊賀市認定農業者協議会に対してもヒアリング予定です。	—
10	10 米作りについて	米作りしていますが、鹿に毎晩苗を喰われて、皆が大変な思いで、米作りしています。農機具、肥料はもちろん、何もかも値上げしていますが、鹿対策が一番大変で、市役所も考えて貰わないと、このままでは、誰も作る人がいなくなります。網しても破られ、資材も高くなって来て、草刈りも倍の時間かかり、本当に苦労しています。鹿の駆除ぜひお願いしたいです。今の現状見て欲しいです。このままでは、後継者もいません。対策お願いします。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
11	2 計画の内容	伊賀市の人口は減少し続けており、資料の通り農業従事者も減り続けています。そのような状況下伊賀市の農業振興を活性化させるには大規模企業型農業しか活性化しないと思います。人が生きていくうえで重要な食料案件ですので伊賀市が主体となり資金を提供し、休耕地を復活させ民間に頼るのではなく伊賀市が農作物を生み出し、今も多い市役所職員に農業に従事してもらい生産販売したお金でもって伊賀市財政に寄与、雇用創出をしてはどうでしょうか。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
12	2ページの3ぎょうめ	個人だけでなく、グループでの農業なども、考えて、広い農場を管理するやり方も考えればと思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
13	1 農業振興計画策定の趣旨	農業従事者といっても農業を職業（ビジネス）としている人と兼業農家で農業収入が主たる収入ではない人がいる。施策は分けて検討する必要があると思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
14	5 策定スケジュール	国の農業政策が変わるかもしれません。策定方針策定時にはSWOT分析等により、戦略の立案が重要だと考えます。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
15	計画の内容4行目伊賀市の地域資源を活用した先進的な農業に取り組む	農業の分野別(稲作、野菜、畜産等)の具体的な方策を示すことが必要。さらに市としてどのようなバックアップ、フォローができるか提示すべきと考える。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
16	農業進行計画策定の趣旨9～10行目70歳以上が67%をしめており	現実はこの世代が働かないと農業は成り立たないため、若い世代ばかりでなく、この世代の活用も計画に入れるべきと考える。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
17	2ページの表	年齢が上がるにつれ減っていくのは、体力的な負担、休めない負担があると思います。教育現場や医療現場にあるような、チーム制にすることで個人の負担を減らす工夫はできないでしょうか?従来の田舎の助け合いとはまた違う、合理的な方法を。チーム制にすることで負担が減り、収入が上がるような合理的な方法を提示していただければと思います。もう、個人も組織も田舎の古い考え方に固執したり押し付けたりしている場合ではないですね。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
18	全体としての意見。	農業計画策定してどうしたいの?減反政策廃止。農家が儲かる様に。米流通経路簡略化。農業を魅力ある仕事に。農業の企業化。農協の体質改善。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
19	策定方針(案) 趣旨 1 1 行目	農家団体・個人の努力ではとうてい改善できない問題ばかりです。そのような状況下で伊賀のブランド力を高めると提言されていますが、伊賀にこだわる必要は無いと思います。他県との連携でブランド力を高めても良いのでは無いでしょうか?	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
20	5.策定スケジュール	策定委員会、3～5回程度を毎月1回程度にする	委員会の開催については、必要に応じて適宜適切な時期に開催させていただきます。	—
21	策定趣旨の5行目「IGAMONO」	もっとアピールできる場を増やすべきだと思う。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
22	策定スケジュールについて	策定方針はおおむね問題なく思われるのですが、どんな人を委員として迎え、どんな人の意見を聞くかによって計画は大きく変わります。伊賀の特徴である中山間地農業を支える人、伊有協など有機農業団体、伊賀牛生産組合など、農業に携わる人の生の声と、農業に関心のある消費者の意見が必要だと感じます。策定委員の決定が先ではなく、各機関との話し合いやタウンミーティングなどを先にして、計画の重要性を周知してから策定委員の募集をしたほうが、意欲ある方が関わってくれそうに思います。学識経験者の選定も、市民の意見を聞いてみてほしい。	委員会については、「伊賀市夢のある農業振興計画策定委員会設置要綱」を定め、有機農業や伊賀牛振興関係者、流通関係者なども含めた委員会を構成することにより、農業従事者や消費者目線の意見を反映できる体制となります。各機関への意見聴取やタウンミーティングなどでの意見については、適宜委員会に報告します。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
23	2.策定方針の18行目「攻め」の農業が必要です。	世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、地球環境問題への対応、海外の市場の拡大等農業を取り巻く情勢などに対応できる農業は、有機農業であると考えます。 現在は化学肥料のほとんどを輸入に頼っており、昨今の世界情勢を鑑みると、化学肥料を使用するやり方では生産が不安定です。そうした輸入肥料ではなく、伊賀米のみみがらや、伊賀の牛の牛糞堆肥、伊賀地域で採取した腐葉土など地元の資源を活用すべきです。そうした地元循環型の農業で生産された農産物を伊賀ブランドとして認定すれば、付加価値のあるものになると思います。また、伊賀市は2024年7月にオーガニックビレッジ宣言をしています。にもかかわらず、本策定方針の計画内容の中に、有機農業が謳われていないことは非常に残念です。 伊賀の農業が魅力的で夢があり、次世代へ持続的なものとするためには、有機農業を本計画の中で全面的に打ち出すべきです。昔から有機農業が盛んであった伊賀市の素地を生かし、有機農業を高付加価値化やブランド力の向上に繋げる第一の手段と位置付けて攻めていくことが必要だと考えます。ぜひ伊賀の有機農業政策を「伊賀モデル」と銘打って、地域内外にアピールしてほしいです。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。なお、オーガニックビレッジ宣言をした旨を策定方針に記載しました。	○
24	1.農業振興計画策定の趣旨 16行目「地球環境問題への対応」	オーガニックビレッジ宣言を元に「有機農業」という文言を入れてもらいたい。有機農法によって農業生産における環境への負荷をできる限り低減した「持続可能な」無理のない農業を伊賀市は行なっていること明記してもらいたい。	「有機農業」については、「1 農業振興計画の策定の趣旨」における7行目に記載しております。また、有機農法に関するご意見については、今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。なお、オーガニックビレッジ宣言をした旨を策定方針に記載しました。	○
25	1.農業振興計画策定の趣旨 表.総農家数	総農家数の表だけでは総販売農家が減って行っている現状だけしかわからず、それがなぜ問題なのか分かりにくい。また総販売農家、自給的農家の意味が取りにくく用語解説が必要。	総農家数の減少による懸念については、「1 農業振興計画の策定の趣旨」における8～10行目に記載しております。また、「販売農家」及び「自給的農家」については、資料に記載の農業センサスにて確認いただけます。	—
26	2.計画の内容 3行目「伊賀市の地域資源を活用した先進的な農業」	伊賀市は地域によって土質、気候、様々であり各々の地域にあった農法がある。小さな村単位での特徴を活かした農産物の変換が多様性を生み出しそれが付加価値になる。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
27	2.計画の内容 8行目「農業に関わる多様な人材の拡大が重要です」	表.農業経営体より15歳から49歳の農業従事者数は平成22年から令和2年に向けて増加している。このことから新規就農者や担い手へのバトンタッチしやすい環境づくりが必要である。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
28	2.計画の内容 5行目「伊賀市には・多面的機能が十分に発揮されることが必要となります」	中山間地における田んぼの利点から「農地保存」という言葉を入れてほしい。また表.総農家数とともに農地の稼働率の表も併せて載せて欲しい。そのことにより農地の荒廃率がわかり、多面的機能へと話が繋がる。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
29	6.策定体制2行目「公共的団体」	公共的団体が何の団体を指しているのかわからないのでより明確な言葉に変えてもらいたい。	「公共的団体」とは、地方自治法第157条に用例がありますが、広く公共的活動を目的とする団体の総称を言います。策定体制に記載の公共的団体については、三重県です。	—
30	4.期間計画 「10ヵ年計画」	計画期間が長すぎる。耕作放棄地の増加、就農者数の減少など、常に変化するものに対する対応は速やかに行なって行かなければならない。ニーズにあう農業計画期間は見直し期間含めて3年に1度が妥当ではないか。	農業の振興については数年単位での期間が必要と考えており、実行していくためには中期的な計画期間が望ましいと考えています。また、農業経営基盤強化促進法第19条に基づく「地域農業経営基盤強化促進計画」（いわゆる「地域計画」）については、計画期間は10年間となっていることも踏まえたものです。なお、計画の見直し期間は概ね5年としていますが、計画の進捗状況や施策の継続性を考慮しながら、適切な時点で実施します。	—
31	伊賀市夢のある農業策定計画スケジュール（案）策定委員会（3回から5回程）	策定委員会の会議の回数が少ない。策定方針決定から年度末まで8カ月の期間があるにも関わらず、最小3カ月に1度の会議で議論が深まるのかが疑問。	委員会の開催については、必要に応じて適宜適切な時期に開催させていただきます。	—
32	伊賀市夢のある農業策定計画スケジュール（案）最終案計画完成	パブリックコメントから計画完成までの期間が短い。市民の意見を熟考し、よりよい農業振興計画策定には1カ月でまとめるには短い。12月議会ではなく3月議会に提出が妥当ではないか。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
33	伊賀市夢のある農業策定計画スケジュール（案）	中間案パブリックコメントの募集期間が短い。より具体的な実行案が数多く出ると思われるのでより多くの意見の吸上げには募集期間を増やしてほしい。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
34	計画策定の趣旨について	オーガニックビレッジ宣言都市であることの記述を追記していただきたいです。	オーガニックビレッジ宣言をした旨を策定方針に記載しました。	○
35	伊賀市夢のある農業振興計画策定スケジュール(案)	令和7年度の策定委員会と令和8年度の策定委員会は、委員会の回数記載ではなく、委員会の大きな協議内容のスケジュールを記載した方が良い。	委員会の開催については、必要に応じて適宜適切な時期に開催させていただきます。	—
36	2、計画の内容の8行目の「若者や女性等が」	やはり生産性のある世代に住んで頂こうと考える事は、とても大切だと考えます。その時に保育園・小学校など子どもの環境も一緒に考えなければならないと思います。空き家+畑をセットにして農村に住んでもらえれば良いと思うので、郡部にある園には特徴のある園を作ることもまた、農業の担い手確保にも繋がるかなと考えます。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
37	2、計画の内容の2行目「安心して経営出来る体勢作り」	学校給食等の公的な所に、作ったお米等を提供出来るようにするなど、やはり安定して供給出来る出口を確保して頂けると保証に繋がって安心して農業に取りこめると思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
38	1、農業振興計画策定の趣旨の8行目「農業者の高齢化や…」	担い手を探している方と新規で農業を始めたい方を上手くマッチング出来るような機会を作ったり、離農する方が機械等を新規でやりたい方に安く譲ったり出来るようなシステム(ジモティーみたいな)その様な物もあれば、これから始めたい若い世代の担い手の方のハードルが下がるかなと思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
39	同上	伊賀市の食料自給率の現在と将来指数を出すといいと思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
40	同上	就農者70歳以上が大半とは！ 住んでいる周囲を見回すと実感します。10年後がどうなっているのか不安しかありません。稼ぎ頭には外でしっかり働いてもらい、そのパートナーで農作業がOKな人に就農してもらうことで、グラフにあるような右下がりの現象を取りあえず食い止めることができないのでしょうか？ 昔、言われた3ちゃん農業の推奨です。伊賀は国が言うような大規模農業ができる所ばかりではないです、山間の所の3ちゃん農業からどうでしょうか。そして3ちゃん農業就農者に手間賃を払える方法を模索する事です。いつまでも時給10円では農家の成り手は無いでしょう。付加価値の付く作物だとかいう前に人員確保では？ 学校教育には農に親しむプログラムを取り入れることも大事です。そして獣害にはしっかりと取り組んでいくことで夢のある計画になると思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
41	策定の主旨にあったグラフを見て	農家数がこの10年で1000戸も減少していることに驚きました。危機です。早く手を打つ施策を。就農者に手当を付けることで	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
42	1策定の主旨 3行目 淀川の源流域となる清水にも恵まれ、美味しい農産物が生産できる 条件	確かに、3、40年前はそのようであったのかと思いました。今はかなり変わってきていることを踏まえた内容にしたらいと思いました。生活スタイルが変化してケミカル製品を多用することで水を汚染しています。伊賀の水道水は所によって必ずしもおいしいとは言えなくて移住者さんたちをがっかりさせていますし、川魚が少なくなったと嘆く声も聞きます。幸い、他市で問題になっているPFASやPHOAの検出は基準値内ですから、これからは水質が汚染しないように誘致企業や市民に協力を求めないと、IGAMONNを維持できないないでしょう。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
43		農村にある空き家、耕作遊休地に関わりたい市民が、関わりやすい「しくみづくりの実現」 ・例えば、ロシアのダーチャの様に、市が遊休地を借し出す。 ・農村の発展を望む人たちが、その活動のために空き家を活用する場合に、費用の一部を市が助成する。 ・農地の草刈りや、森林整備等、農村自然環境の維持発展が、寄与している多面的機能を最大限評価し、草刈りや、森林整備作業に対する助成を公務員レベルへ。もしくは、公務員が、月に2回は農村の草刈りへ参加する等、農村発展は公務である自覚を養ってゆきましょうね。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
44		伊賀市で、種苗関係の条例を作っていただきたいです。近年、遺伝子組み換え技術、ゲノム編集技術、細胞培養によるウナギづくり等々、「生命の道から外れているのでは」と感じるアグリテックに大変不安を感じています。 個人的には、導入には反対です。伊賀市としても、ぜひ、ロシアやヨーロッパを見習って、安全性が確立されていない技術の導入には反対、もしくは最大限の慎重さを実現できる「しくみ」を条例に入れて下さいね。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
45		ネオニコチノイド農薬や、ラウンドアップ除草剤等々、農薬による被害は、国際社会の中でも明らかになって来ました。伊賀市としても無農薬栽培農家への助成を手厚くする等、農薬を辞める方向性で、ぜひ動いてほしいです。それは、自分たちの大切な子や孫たちの健康に直結し、医りょう費の削減等々、メリットが沢山あるとおもいます。ロシア、ヨーロッパ、石川県、岡山県等、ぜひ見習ってゆきましょう。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
46		<p>伊賀市職員のみなさまへ いつもお世話になっています。ありがとうございます。</p> <p>「農業を営む」いわゆる「営農」も大切ながら、つい60年前までは、家族やご近所さんと力を合わせる「結」のなかに「農」があったと、私は理解しています。</p> <p>「昔にもどす」のではないにしろ、昔のなかにあった「大切なコト」は何でしょうか。ひとりひとりがムネに手を当てて、「何を望み願っているのか」「何を受け継いでゆきたいのか」を思い出して、共に叶えてゆきましょう。農薬や除草剤を使わない。人間以外の生き物と、生命育んでゆける営みのなかの農を営農してゆきましょう。</p> <p>多面的機能をはたしている農家さんや中山間地の人たちに、公務員的な対応を行ってゆきましょう。来世また伊賀に生まれて来なくなるような、末永く末広がり、たのしい夢を叶えてゆきましょう。無農薬、有機自然さいばい農家さんを応援してゆきましょう。町の人も効外で気軽に家てい菜園出来る手助けをしてゆきましょう。お母さんや子どもたちがもっと生きやすい農村をまちをつくってゆきましょう。ありがとうございます。</p>	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
47	策定方針	市民参加はもちろん賛成ですが、大規模農業事業者だけではなく、殆どが小規模農家ですのでこれらの方々の意見を吸い上げ皆さんの営農を支援していく必要もあります。考慮ください。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
48	計画の内容	島ヶ原地域では、農業振興のリスクとして記載されている内容に加え、「獣害」が大きな課題でその対応に苦勞しています。「獣害対策」を追記して頂ければと思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
49	農業振興計画策定の主旨	特に異論はありませんが、小泉農水大臣に代わってから、農業政策がこれまでと大きく変わってきているように思われます。これらの情報を入手し、内容に反映していただきたいと思います。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
50	計画の内容（自然環境を守る、高齢化、所得の確立）	<p>田畑を集積化して大規模農業団体にまかす（人農地プラン）は伊賀でも向いた地域もあるが畑の多い中山間地域では、他地域でも展開する団体ではその地域の環境を守る意識はおろそかになりがちである。（地域での営農組合は四びと思うが高齢化における後継者問題は残る）。やはり若者が多い都会に目を向けて若い新規移住就農者を誘致するのが1番であると考えます。</p> <p>私も、都会に向けて新規就農者募集お飛び研修を伊賀市法花地区で行いこの10年で水耕栽培は3社（全国的には、約50社）そして、現在は中止し露地栽培の2年間研修に切り替え昨年からはじめ現在研修生は3名。1年後にはこの法花地区で独立の予定です。また7月には愛知県から1名参加予定です。</p> <p>やはり研修生の応募には、つぎのような準備が必要です。</p> <p>まず、体験農園を行い研修生候補を探し、移住候補地として伊賀の良さも伝える。次に農業で家族を養っていきけるのかの収支目標と成功確率の説明事例ができるか</p> <p>無理そうであれば、兼業農家もお勧めしています。</p> <p>農業成功のポイントは、マーケティングだと思います。（もちろん農法も大事ですし良いものを作ることも大事ですがどう価格決定権を持つかということ）</p> <p>私も、いろいろなマーケティングの提案をし、これからの研修生が来てくれるわけですが、この様々なマーケティング手法の構築を行政がどれだけ後押しできるか、そこをもっともっと議論されてはどうでしょうか。（ここで夢は無限大に広がりそうですよ。私も15年前までは、大阪で飲食店向けに農産物のマーケティング会社をやっておりましたのでそのマーケティング構築の楽しさは十分理解できます。</p> <p>農産物の独特のマーケティングを楽しんでいただける行政の方がいらっしやると夢のある農業は必ず成功すると思っています。</p> <p>私も15年前に、農業をしたくて夫婦で移住してきましたが、都会では農業に興味を持つ若者が一定数います。（大阪から1.5時間の距離感絶好の移住地です）</p> <p>この人たちが、伊賀で農業移住をして成功してくれば、伊賀の若者の人口増加につながり活性化につながります。</p> <p>現実、私の住む地域では彼ら（約10名の新規就農及び研修生が年4回ほど出会い（市道・生活道路の草刈り）等に参加してくれて地域の人にも喜ばれています。ほとんどの事業が成功のためにシェアを取る戦いをするわけですが、農業はともに学び、ともに食し、ともに生きるという、共生がめざせる素晴らしい仕事だと思います。（農は国家の礎なり）（自分だけの成功を目指す時代から脱却しよう）</p> <p>農業を目指す方は、雇用されることがいやな方が多い。つまり、愛想の悪い方も多いけど、一番大事な情熱は高くこの若者情熱を伊賀の活性化に導入しない手はないのではないのでしょうか。</p>	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
51	「2計画の内容」 1段落目	段落末尾に次の一文を追加していただきたい。 「また、オーガニックビレッジ宣言の趣旨のとおり、有機農業に対する理解を広げ、有機農業と慣行農業等が両立した持続可能な農業の実現を推進します。」 ※意見について 多様な農法が調和することにより、持続可能な農業や安全安心な食の確保につながり、就農者の幅も広がると考えます。ひいては農村の再生にもつながることを期待しています。	オーガニックビレッジ宣言をした旨を策定方針に記載しました。	○
52	4段落目	①「これまで取組んできた農業を尊重・継続しつつ」を「伊賀市においては、令和6年7月に名張市とともに「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。これまで取組んできた慣行農業はもとより、有機農業に限らず自然農法、特別栽培など多様な農法も含め持続可能な農業の推進を継続しつつ、」としていただきたい。 ②「持続可能な魅力ある農業」を「持続可能な魅力ある多様な農業とそれを支える農村の再生」としていただきたい。	オーガニックビレッジ宣言をした旨を策定方針に記載しました。	○
53	策定方針（案） 1ページ 「1農業振興計画の策定の趣旨」 3段落目	①3段落目冒頭の「令和6年6月に食料・農業・農村基本法が改正され・・・」の前に次の一文を追加いただきたい。 「令和3年5月に食料・農林水産業の生産力向上と生産から消費までのあらゆる段階における環境負荷低減などの持続可能性を両立させるための包括的な計画としてみどりの食料システム戦略が策定され、令和4年7月にはその戦略の実現を後押しするためみどりの食料システム法が制定されました。こうした流れを受けて」 ②「食料の安定供給の確保」や「農業の持つ多面的機能の発揮」等」の前に「環境と調和のとれた食料システムの確立」を新たな基本理念とした」を追加いただきたい。	①については、直近の法改正のみを記載しており、法改正に至る経緯等については記載不要と考えます。 ②については、食料・農業・農村基本計画の5つの基本理念の一部を例示したものであり、「環境と調和のとれた食料システムの確立」については記載はありませんが、5つの理念を踏まえた計画とします。	—
54	3～4ページ 「本計画は、伊賀市総合計画を上位計画とし、伊賀市産業振興条例の基本理念や基本方針を踏まえた、農業部門における計画となります。」	伊賀市の地域特性を踏まえると、計画の名称と対象は「農業振興」にとどめず、農村全体の暮らしと環境を対象とする『農村振興計画』として位置づけていただきたいと考えます。伊賀市は市域の大半が中山間地・農村地域であり、農業だけでなく、農村の生活地域資源管理など、複合的な課題と向き合う必要があると考えます。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
55	3ページ中段 「より高付加価値化やブランド力の向上といった『攻め』の農業が必要です。」	「攻め」の農業とともに、地域内での地産地消、学校給食や保育所給食、福祉施設との連携、小規模多品目の有機農業などを重視する「守り」の農業も評価・支援対象に明記していただきたいと考えます。地域の多様な農家を活かした地元流通の促進が、住民の健康・地域経済・環境にも貢献する市民に身近な振興計画になるのではないのでしょうか。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
56	2ページ中段 「地域社会を維持していくためにも、農村内部の人口の維持及び農業に関わる多様な人材の拡大が重要です。」	農業の担い手支援だけでなく、農村に住み続けられるための住まい・教育・子育て環境の整備など、「暮らしの全体像」に踏み込んだ検討をお願いしたいです。 また、国連が提唱する『家族農業の10年（UNDF）』の方針に沿い、家族経営農家の支援、女性や若者の参入促進、農家同士のネットワークづくり、地域資源に根ざした小規模農業の振興などの位置づけも検討いただきたいです。 こうした視点は、農村の人口減少や暮らしの継続に直結するものだと考えます。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
57	2ページ冒頭 「伊賀市には中山間地域も多く、流域の上流部に位置することから、農業・農村が持つ水源涵養、洪水防止、土壌の浸食や崩壊の防止といった多面的機能が十分に発揮されることが必要となります。」	この「多面的機能」の維持に向けて、里山・棚田・山林などの自然環境と連携した循環型農業や、景観保全の担い手支援が不可欠です。教育・観光・福祉との連携や市民協働のしくみを活かした「農村資源を核とした地域づくり」も、将来像として位置づけていただきたいです。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
58	1ページ中段 「また、近年の農業資材や農業機械の価格高騰、異常気象や災害などに伴う農業被害等、課題が山積しています。」	ここで挙げられている課題は、農業者にとっての経営リスクであり、農業の持続性が揺らいでいることを示しています。こうしたリスクが長期的に農業離れ・耕作放棄地の増加などにつながれば、最終的には市民全体の食料供給の安定性＝食料安全保障の問題にも直結します。 特に、お米は主食であり、将来的な輸入依存のリスクを考慮しても、市民が消費する最低限の量の伊賀米を地元で確保・流通・備蓄できる体制づくりが必要ではないでしょうか。 またその際、都市部住民が農村の米作りを支える仕組み（例：援農やコメの市民ファンド）を導入し、代わりに安定供給を受けるような新たな都市と農村協働のモデルも検討いただければと考えます。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
59	2.計画内容の7行目～9行目 ①農村倍部の人口の維持 ②及び農業に関わる多様な人材の拡大が」	①減っていくなりにどう生活していくかを皆で考えられる自立した村や地域が沢山あると、市としても”夢のある”状態になりそうですね！ ②そのために、まだ農の関わったことないけど興味があるという人への発信や体験ができる機会を作っていくことが最も大切と考えます。 体験イベントには、準備や労力（心身ともに）必要となります。主催や協力する農家や地域へのサポートもしっかりあると持続的にやっていけるのではないかと考えます。自給的な家庭菜園をされている人も多いので、農家での体験も家庭菜園サイズの体験も選べるようにしておくといいのかと思います。 空いている土地を調査してまとめるetc...も必要！土地や家を誰か使ってほしいという方と農村で田畑をしたい方、くらしたい方をつなぐためのシステムがあるといいなと思います。（「以前博覧に来てくれた「さかさま不動産」のような）こんなことしたい！って人がアピールして、それに地主さんがぜひ使ってと手を上げるようなしくみ	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
60	6 策定体制 （1）審議機関	農業委員会の位置づけが見えてこない。 各地域等で検証検討する際には、その存在感を示していただきたい。	農業委員会の委員については、「6 策定体制（1）審議機関」における「農業団体」として「伊賀市夢のある農業振興計画策定委員会」の構成員となります。	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
61	2 計画の内容	<p>部分修正ではわかりにくい文章なので、抜本的に小タイトルも加えて、次のように全面修正していただきたい。</p> <p>2 計画の内容 （課題の検証単位）</p> <p>計画には、現状課題の分析は欠かせません。伊賀市全体の分析はもちろん必要ですが、伊賀市内各地域は多様な地域特性を有しているため、地域性を考慮して、原則、自治協（各地域）単位で検証することにします。各地域の「地域計画素案」や各自治協単位の「まちづくり計画」を検証の材料とします。</p> <p>（将来のビジョンづくり）</p> <p>そのうえで、将来（約10年先：2036年）の伊賀市農業を思い描き、10年先の農業者にターゲットを定め、各地域で安心して農業経営ができる体制には担い手や組織がどうあるべきか、そのための育成はどうあるべきか検討します。</p> <p>さらに、10年先の農業者の農業所得や農業における雇用のあり方を検討し、バックキャストिंगの手法でまとめていきます。</p> <p>なお、国や県の動きなどを注視し、関係団体と連携を図りながら進めます。</p> <p>（夢のある農業経営・農村維持につながる計画）</p> <p>伊賀市内は、土地利用的に大きく分けて平場と中山間地域があります。特に中山間地域は人口減少も著しく、農地その他の土地の維持管理がたいへんであることは以前から指摘されてきました。地域社会を維持していく為にも、各地域で定住人口、関係者人口等のあり方ビジョンとして明確にしていくことが必要です。若者や女性、移住者等が農村の持つ価値に魅力を感じて、関心や関わりを高められるような、「夢のある農業・農村」につながる農業振興・農村振興を総合行政のもとで進める基礎となる計画を作成します。またそれは伊賀流自治として、住民自治協議会が果たす「住民自治」、いうなれば「農村自治」とも連動するものになることをめざします。</p>	<p>ご意見いただいた修文内容については、今後の計画策定段階において検討すべき事項も含まれていることから、全面修正しないこととし、今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。</p>	—
62	1 農業振興計画策定の趣旨のグラフ	<p>グラフが2つ、紙面面積を使って載せてあるが、総農家数、従事者数の年齢分布だけでなく、せめて耕作面積の推移や農業生産額の推移なども掲載してほしい。あるいは、そもそも「策定方針」であるなら、グラフなどは抜いておいてもよいのではないか。</p>	<p>視覚的に分かりやすいものとするために、グラフを掲載しました。掲載内容については、農業における大きな課題である「担い手の減少」に着目しました。</p>	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
63	1 農業振興計画策定の趣旨の文章	<p>文章表現を部分的に修正をお願いしようと思いましたが、全体を通して部分修正では、どうしてもわかりにくい文章になってしまいそうなので、次のように小タイトルも加え全面修正していただきたい。</p> <p>1 農業・農村振興計画策定の趣旨 （農業生産面の伊賀市域概要）</p> <p>伊賀市の特徴を概観すると、日較差の大きい盆地特有の内陸性気候、木津川の源流域に位置する優良な水質、豊かな地下水・伏流水を含む豊富な水量、古琵琶湖層に由来する優れた土質などをあげることができます。そのため、伊賀市は美味しいお米を基軸に多様な農作物の生産力のある農業・農村都市となっています。</p> <p>全国的にも有名な伊賀米コシヒカリや伊賀牛をはじめ、アスパラガス、白鳳ナシ、芭蕉ネギなど「IGAMONO」ブランドの認定品として高付加価値化が図られて来ました。また以前より有機農業が県内でも盛んな地域として、栽培・出荷されています。</p> <p>（伊賀市農業の課題）</p> <p>一方、農地の担い手である農業者数は、20年前に比べて約40%減少しているとともに、平均年齢も70歳以上が約67%を占めており、農業者の高齢化や後継者不足は課題が年々大きくなってきています。</p> <p>加えて、耕作面積の減少（耕作放棄地の増加）や鳥獣被害の増加、農業資材や農業機械等の価格高騰、異常気象や災害などに伴う被害などは、農業経営に関する不安定要素として、特に近年、増大してきています。</p> <p>（日本国内外の動向）</p> <p>令和6年6月に「食料・農業・農村基本法」が改正され、食料安定供給の確保や農業の有する多面的機能の発揮等といった基本理念が示されました、昨今では、国際的な食糧安全保障上のリスクや、地球環境問題への対応など、農業を取り巻く情勢は大きく変化してきています。</p> <p>（計画策定の趣旨）</p> <p>このような状況の中、これまでの伊賀市内における農業生産や農村社会の歴史やありようを尊重・継続しつつ、かんがい用水路や農道等、各種農業施設の長寿命化や個人や組織による営農の充実のための農地の確保といった「守り」とともに、農産物の高付加価値化やブランド力の向上といった農業所得向上につながる「攻め」のあり方が重要になっています。そのためにも、発信力の向上、販路の確保、また市内で一定数の就農者を維持するための人材育成についても取り組む必要があります。</p> <p>こうしたことから、伊賀市における「持続可能な魅力ある農業・農村」の実現をめざし、「伊賀市夢のある農業・農村振興計画」（以下「本計画」という。）を策定します。</p>	<p>ご意見いただいた修文内容については、市が公表した策定方針（案）の内容と大きく趣旨が変わるものではないと考えることから、全面修正しないこととします。</p>	—
64	計画名	<p>「産業としての農業」についてだけではなく、農業振興のためには「農村振興や農村生活の維持」がなくてはならないと考えます。大切な計画だからこそ、農業と農村を切り離した扱いにするのには反対します。</p> <p>例えば、「伊賀市夢のある農業・農村振興計画」のように、策定計画名の修正をお願いします。</p>	<p>「2 計画内容」において「農業・農村が持つ多面的機能」や「農村内部の人口維持」など、農村にかかる記述もあることから、計画の策定においては、農業とあわせて農村の振興についても検討していきます。</p>	—
65	4. 計画期間 より効果的な計画の策定を進めます。	<p>計画に掲げた諸施策の目的・目標を達成するため、計画の戦略性・実効性を高めます。</p> <p>それには、計画の策定（Plan）→計画の実施（Do）→計画の検証・評価（Check）→計画の改善（Action）→計画の策定（Plan）→・・・といったPDCAサイクルを繰り返します。</p> <p>また、まちづくり計画と連動・連携・整合するより効果的な策定を進めます。</p>	<p>今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。</p>	—
66	2 計画の内容	<p>子どもたちの給食をオーガニック給食にできるように、市の補助をお願いします。</p> <p>伊賀市で有機農家を増やして地産地消も共にめざしていく計画をお願いします。</p> <p>千葉県いずみ市では2015年から計画実行し、2022年にオーガニック給食無償化を実現しています。木更津市でも、2019年からはじめ2026年に達成予定です。</p> <p>また、福島県あつしお市ではJA農家さんが有機にかわり有機の里となっています。そこの給食では、誰が作ったか教室に写真を貼っていて、作ってくれた人が身近な人で、栄養だけでなく、温かいつながりを感じて子どもたちが食べるできています。それはとても幸せなことだと感じています。そんな地域である伊賀市を願い夢があります。</p>	<p>今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。</p>	—

No.	該当箇所	意見内容（原文のまま）	意見への対応	策定方針への反映
67	2 計画の内容	<p>現在お米農家の時給は90円といわれ、ほとんど赤字です。作り続けてくださってる方は、先祖の土地を守り、日本人の誇りを保ち、奉仕の心でして下さっているような状況です。日本の食料自給率を上げることは国民が安心して暮らし続けることに必須です。主食のお米を作られている農家さんには行政からの補助金を出してもらい、生計を立てれる水準にしてもらえるようお願いします。そうすることで若い人たちにも、就職したい！日本人の誇りとなるお米を育てる仕事に夢をもってやりたい！と思い、進んでもらえます。</p> <p>また、ドイツ、スイスでは農家が公務員になっています。食料は人が生きる上で必須ですし、自給率を高めることは国が存続していく基本です。公務員にすることは、これからの時代のモデルになり得るかと思います。</p>	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
68	2 計画の内容	<p>農業の規制と空中散布の補助金をやめて、有機農家への補助金を出してもらえよう望みます。</p> <p>農薬によって人の神経発達に悪影響があると懸念し、欧州食品安全機関はじめ、EU、他各国で農薬の使用禁止しています。また、「Science」と「Nature」という科学誌で昆虫の大量死を結び付ける証拠を明らかにし、ドイツのクレーフェルト昆虫学会では現在虫が76%も減っていると発表しています。ジルエリックセラリーニさんはラウンドアップでガンなる証明をされて、黒田純子さんはグリホサートが孫ひ孫に異常が出て生殖に影響、卵巣疾患、胎児の数が減るとされています。病人の数が増え、子どもが減る現実を、農薬をやめることで改善できます。</p> <p>農薬をやめることで、日本の農業にもたらす野生ポリネーターによる送粉サービスは3,300億円とされていて、（国立研究開発法人農薬環境技術研究所）生態系を守ると共に、農作物の利益を確保できます。ただし、西洋ミツバチは、周囲の花粉を太陽に採るために、西洋ミツバチによって虫が減っていることが言われているので、野生ポリネーターを守る必要があります。</p> <p>また、新潟県佐渡市では絶滅しそうになっていたトキが復活しています。（農薬散布を中止することにより）豊かな生態系を守ることは、地域の魅力になります。それと合わせて、有機農家を増やすことで、インドではオーガニックの町では50%も観光客が増えています。アメリカでは医療費をへらして食療法費を増やすこと（オーガニック食材を増やす）で、健康寿命をのばすようにしています。オーガニック食材は、ミネラルが多いので体温が上がったり、発達障害が治ったり、実例がでています。（福岡高とり保育園、みずほ認定保育園／満尾正先生、渡邊昌先生証言）新潟県佐渡市でも。アレルギーアトピーを持つ子が増えた現在、有機食材は求められています、農家さんが経営しやすく、有機農家になりやすくなる若者が増えるように行政からの補助を望みます。有機農業を目指す人たちが、夢を叶え、環境や人の健やかさを守り、この土地の顔にもなるという、かっこよく誇りをもって働きやすくして頂けますようお願いいたします。</p>	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—
69	2 計画の内容	農薬を使わない環境作りまずは人材が必要。思いやりと心から良くなることを願う気持ちを作る。	今後の計画策定における参考意見とさせていただきます。	—